

平成28年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
蚕糸・地域特産部門

妥協しない土作りと女性の活躍に支えられたこんにゃく経営

○氏名又は名称 八高 範夫・八高 圭子

○所在地 群馬県渋川市

○出品財 技術・ほ場（立毛ほ）

○受賞理由

・地域の概要

渋川市は、群馬県の中央部に位置し、標高差に富んだ地域特性を活かし、こんにゃく、そば、米麦を中心とした土地利用型作物の他、施設園芸や露地野菜が盛んである。中でも、こんにゃくは県内有数の産地であり、経営類型はこんにゃく専作、経営規模は5～10haが多く、地域の基幹品目として重要な位置を占めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

八高氏は、大学卒業直後の昭和56年に就農したが、当時は、こんにゃくと椎茸の複合経営であった。当初、こんにゃくの栽培面積は1.2haであったが、規模拡大を進め、5haになった平成22年に長男が就農し、平成25年にはこんにゃく専作に特化し、現在の経営規模は、7.5haとなっている。平成27年の生産量は、289,238kgであり、10aあたりの平均収穫量は県平均を32%上回っている。また、所得率は県の農業経営指標と比較すると40～50%上回っている。

・受賞者の特色

(1) 妥協しない土作りと貯蔵法

八高氏は、畜産農家が1年ほど熟成した「おがくず牛ふん」を購入し、更に堆肥舎で発酵促進剤などを加え、熟度に応じて切り返すなど、1年以上かけて仕上げた「完熟おがくず牛ふん堆肥」を投入することにより、土作りと腐敗病などの重大な病害の防除を両立させている。

また、こんにゃくは、種芋の貯蔵管理が重要であるが、八高氏は、養蚕で使用されていた蚕室を貯蔵場所としてそのまま使い、1年生の種芋を煙で燻すことにより病気の原因となる細菌の活動を抑え、種芋に発生する腐敗やカビを低減する「火棚貯蔵法」を行っており、コストと環境面で優れているものである。

(2) 女性の活躍に支えられたこんにゃく経営

八高氏は、地域でもいち早く植付機や堆肥散布機等を導入する等設備投資を積極的に行っている。また、圭子氏の意見も取り入れ、勤務日数や時間等個々のライフスタイルに合わせた雇用形態を取り入れることで女性でも安心して働ける環境を実現している。圭子氏は、県の農村生活アドバイザーや渋川市の農村女性会議の会長として農村女性の社会参画や組織活動の支援にも取り組んでおり、これらの活動を通じて産地全体の発展に寄与している。

・普及性と今後の発展方向

八高氏は、「栽培技術の向上と規模拡大が最も近道である」との経営理念を持ち、土作りの重視や減農薬栽培の導入など、更なる技術向上に積極的に取り組んでいる。また、長男への経営移譲を視野に入れ、栽培面積10ha以上を目標に規模拡大を進めており、28年8月には親子4者で家族経営協定を締結するなど、着実に経営発展につながる取組を進めている。